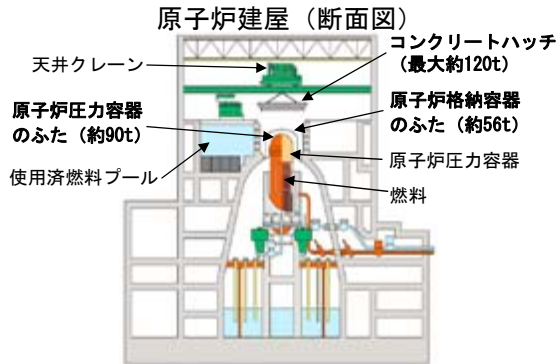


# 福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成26年5月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した冷温停止を維持しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

## 1号機の燃料移動に先立ち 原子炉開放作業を開始しました

- 1号機における原子炉から使用済燃料プールへの燃料移動に先立ち、原子炉開放作業を5月12日から開始し、コンクリートハッチ、原子炉格納容器・圧力容器それぞれのふたをとりはずしました。
- 1号機の原子炉開放作業は、震災後初めての作業であり、震災時の状況（高温、高圧）を踏まえて、綿密に工程を組み慎重に進めています。例えば、原子炉圧力容器のふたを押さえている92個のボルトとナットに若干のサビが見られたことから、手作業で丁寧に取り除きましたが、計画通りの工程で問題なくふたをとりはずすことができました。
- 今後の予定としては、本作業は5月中に完了し、その後、6月上旬から燃料移動を開始します。引き続き、慎重に作業を進めていきます。



\* 原子炉開放作業  
コンクリートハッチ、原子炉格納容器のふた、原子炉圧力容器のふた、蒸気乾燥器、気水分離器などを天井クレーン（吊上荷重125t）で吊り上げて、とりはずす作業です。

### ○原子炉開放・燃料移動スケジュール

	平成26年5月	平成26年6月
1号機	原子炉開放 5/12～5月末（予定）	燃料移動 6/2（予定）～ 6月末（予定）



原子炉圧力容器のふたのとりはずし

## 冷温停止維持に向け、日々、取り組んでいます ～非常用ディーゼル発電機の点検と確認試験～

- これまで緊急時における冷温停止維持に向けた取り組みとして、電源車やガスタービン発電機による電源確保を目的とした訓練などを紹介してきましたが、震災被害から復旧した設備の点検等も着実に進めています。
- 非常用ディーゼル発電機もその一つであり、通常使っている電気が停止すると、冷温停止を維持するため自動的に起動します。1台でも安定した冷却に必要な電気を発電できますが、1～4号機に各々3台ずつ設置しており、点検は、この3台が重ならないよう計画的に行っています。
- また、毎月1回の確認試験では、実際に起動させて、正常に機能することを確認しています。そのため、試験のたびに、原子炉建屋に取り付けられた煙突から煙が立ち昇ります。



非常用ディーゼル発電機（発電機）



非常用ディーゼル発電機（ディーゼル機関）



発電機の組み立て（平成24年8月）



ディーゼル機関の点検

## 負傷者が発生した際の対応訓練について 紹介します

- 当所は、作業安全に向けた取り組みを進めていますが、作業等でけが人が発生した場合には、適切な処置を迅速に行えるよう、訓練を行っています。
- 放射線管理区域\*で作業員がけがをした場合は、けが人を現場からプラント内の処置室に搬送します。けが人が放射性物質で汚染していることを前提として対応しますので、処置室自体を放射線管理区域として設定して、全身の汚染検査を行います。検査の結果、傷口等に放射性物質の付着があれば、生理的食塩水で洗浄し除染します。そのうえで、傷口を包帯で巻くなどの応急処置を行い、急患移送車で医療機関へ搬送します。なお、車には、放射線監理員が同乗し、搬送先の医療機関で状況を説明します。
- こうした状況に迅速な対応がはかれるよう、定期的に訓練を行っています。

### ○訓練の様子



放射能汚染の確認



傷口の除染



傷口の手当て



医療機関へ運ぶ際に使用する急患移送車

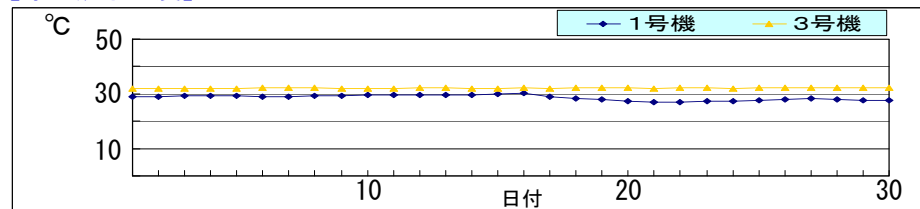
\*放射線による無用な被ばくを防止するため、また、放射性物質による放射能汚染の拡大防止をはかるため管理を必要とする区域。

## 【プラントデータ】

### 燃料の冷却状況（4月分）

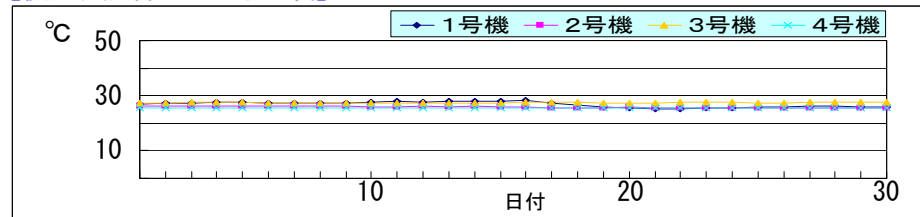
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

#### 【原子炉水温度】



2号機は平成25年10月16日までに、4号機は平成24年10月24日までに原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

#### 【使用済燃料プール水温度】



発電所敷地境界付近の空間放射線量率（1時間あたりの放射線の量）については、当社ホームページをご覧ください。

<当社ホームページ><http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>

### 使用済燃料プール内に異物等があった原因と対策をとりまとめました

- 3月号でお知らせした通り、1号機の使用済燃料プール内から異物等（フック、容器\*）を回収しました。その後、2～4号機についても調査を行い、ワイヤー付きボルト等、計10個の異物を回収しましたが、燃料等への影響はありません。原因調査の結果、混入した経路や時期は特定できませんでしたが、平成16年4月以降は、異物混入防止対策を強化していることから、それ以前に混入したものと推定しました。引き続き、同対策を徹底していきます。
- また、異物ではありませんが、1号機と同プール床面から回収した容器については、平成4年8月に同容器を保管する箱へ収納する際、同プール床面に落下させてしまい、そのまま箱に保管されているものとして管理していました。今後は、水中カメラを用いて、確実に同容器を保管する箱へ収納したことを確認します。



回収したワイヤー付きボルト



回収した中性子検出器廃棄容器

\* 中性子検出器廃棄容器  
中性子検出器は、原子炉内の中性子の量を計測することで出力を監視する装置であり、中性子検出器廃棄容器は原子炉内で使用した中性子検出器を切断して格納し廃棄するための容器

福島第二原子力発電所は、引き続き安定した冷温停止を維持してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ  
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時